



Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 3 2014.07.29



CONTENTS

■ご挨拶		p2
■第13回NIBC開催内容報告		p3
■臨床研修レポート		p4
■野口医学研究所が支援する就学助成金制度		p6
■賛助会員のご紹介		p7
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内		P7

ご挨拶

ようこそ野口ワールドへ

皆様は野口英世のことについて、どれくらいご存知でしょうか。
幼いときに火傷を負ったこと。親孝行であったこと。アメリカで勉強したこと。黄熱病でアフリカにて亡くなったこと。千円札の人。

私自身も参与になるまでこの程度の認識でした。

浅野名誉理事の薦めもあり先般逝去されました渡辺淳一先生の野口英世の伝記的小説「遠き落日」を読み、認識を新たにしました。
野口英世がアメリカ留学のため、婚約者の実家から出してもらった資金を横浜の花町にて一晩で使ってしまったこと。裕福になっても母親にはほとんど仕送りしないエゴイストだったこと等、野口英世の意外な実像に触れ、驚きを感じるとともに「人間野口英世」に触れ、嬉しくもなりました。

(＊但し、医学の研究における常軌を逸した研究姿勢は我々のイメージどおり偉人野口英世であったようです。) 皆様にもご一読をお薦め致します。



さて、参与会主催の「野口国際ビジネス交流会」も14回目を迎えます。

いつも野口国際ビジネス交流会へのご参加また、米国財団法人野口医学研究所の活動へのご理解とご協力ありがとうございます。

ご参加の皆様に「勉強になった」「楽しかった」そして「ビジネスに繋がった」とご満足頂ける内容になるよう参与会一同、毎回、懸命に知恵を絞っています。

人生もビジネスも「運」と「ご縁」。

「野口国際ビジネス交流会」を通して良い「ご縁」を結ばれ、たくさんの「運」をお持ち帰りになることを願ってやみません。

また交流会の内容につきご意見、ご要望があればアドバイス頂けましたら幸いです。

今後とも米国財団法人野口医学研究所並びに参与会を宜しくお願い申し上げます。

米国財団法人野口医学研究所
参与会副会長 津々木 邦典



第13回NIBC開催内容報告

(NIBC : Noguchi International Business Conference)

【日程】2014年5月27日（火）

【開催場所】野口医学研究所 9階会議室

下町職人、世界を目指す

4000社の工場がひしめく大田区は、物作りの街です。しかし、受託産業でありながら、大手企業がどんどん海外に部品の製造を委託するようになり、マーケットが縮小してしまいました。その現状をもう一度自分たちの力で取り戻すべく、どうやって我々は物作りを世界に発信できるかを考えた末、『下町ボブスレープロジェクト』が発案されたのです。オリンピックという同じ目標を持ちながら、大手企業が参入していない「品物」で協業し、世界戦を目指すには、ボブスレーというスポーツは中小企業にもチャンスがある「品物」でした。厳しい納期、無報酬にも拘らず、多くの企業が参入し、ソリの開発を試み、プロジェクト発足から約1年後にはソリが完成されました。同年に行われた日本選手権では好タイムを出して優勝し、翌年には国際大会にも出場しました。このような結果を残すことができたのは、信頼して相談し、人との繋がりがある地域に支えられてきたからだと確信しています。このような日本人に依る夢のある物作りプロジェクトは今後も継続していくことが大切だと考えています。



株式会社マテリアル 代表取締役
下町ボブスレーネットワークプロジェクト 推進委員長
細貝 淳一

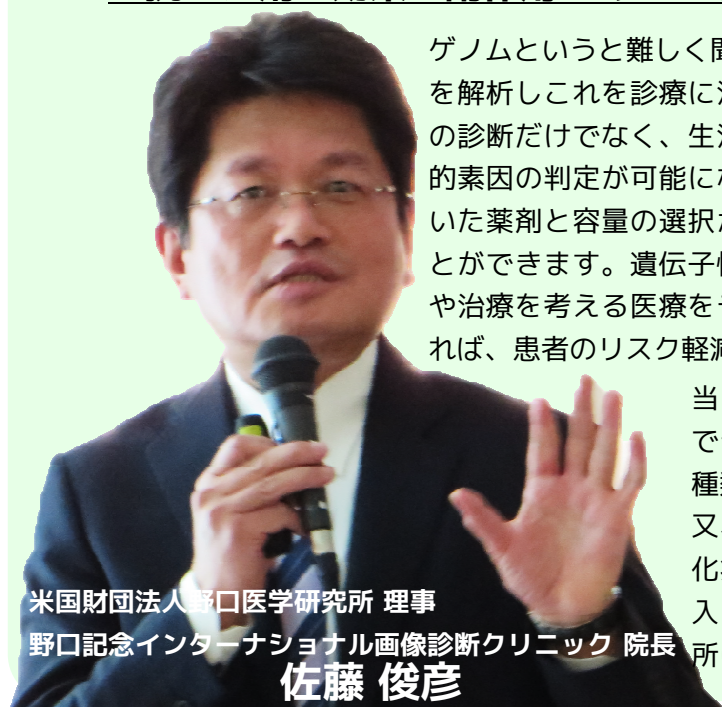
ゲノム薬理学を診療に生かす

－抗がん剤の効果と副作用をあらかじめ予想する：テーラーメイド治療

ゲノムというと難しく聞こえるかもしれませんが、要するにゲノム（＝遺伝子）を解析しこれを診療に活かすということです。ゲノム解析に依り、遺伝的難病の診断だけでなく、生活習慣病等の一般的な疾患や、身体的特徴に関する遺伝的素因の判定が可能になります。これを薬理学に活かすと、科学的根拠に基づいた薬剤と容量の選択が可能になり、無駄な服用を防ぎ、副作用も回避することができます。遺伝子情報の僅かな違いを調べて、個々の患者に対応した投薬や治療を考える医療をテーラーメイド医療＝個別化医療といい、これを応用すれば、患者のリスク軽減や最適な治療の選択をすることができます。

当クリニックでは、癌手術後の患者が安心して治療を選択できるよう、テロメスキャン、トモセラピー、BAK療法の3種類の遺伝子治療を適宜組み合わせています。

又、パーキンソン病やアルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)等神経疾患に対する遺伝子治療技術の安全な導入と健やかな実用化を目指し、近年では(株)遺伝子治療研究所に拠って研究が進められています。



米国財団法人野口医学研究所 理事
野口記念国際ナショナル画像診断クリニック 院長
佐藤 俊彦



臨床研修レポート

東京都立小児総合医療センター 高橋 卓人
総合診療科シニアレジデント

一般社団法人野口医学研究所「社団野口」の収益金の一部は、米国財団法人野口医学研究所「財団野口」を通じて、国際医学交流に使われています。今回は、今年6月にフィラデルフィア小児病院（CHOP）で研修された高橋卓人先生の研修レポートを一部抜粋してご紹介します。

日米のレジデントの違い ～講義重視と現場重視～

まず日米では医師教育を行う土台が大きく異なります。米国では膨大な医療・事務スタッフを確保しており教育に費やす人員も多い為、米国の指導医は時間的にも精神的にも余裕を持って教育に専念することが出来、レジデントはコ・メディカルの充実により自らの手足を動かす機会が少なく時間に余裕があります。その為、午前のお診は3-4時間かけて教育的に行われ、昼には食事付きの全体での勉強会が1時間あり、更に週3回は午前中に30分の全体での勉強会があり、午後にも指導医がチーム内で約1時間のレクチャーをすることがあります。そして勤務時間内にそれだけの学習の時間を確保していても、当番の人以外は17時頃に帰宅します。また細部まで徹底された院内マニュアルがあり、多くの分野で超専門家の医師も充実している為、診療上の悩み事を自分で必死に調べる必要性も少ないようでした。一方で、日本では人材が充実していない為、指導医もレジデントも忙しいです。採血・ルート確保、検査の鎮静、検査や外科手技の付き添い・見学など、米国では他者が担う仕事をレジデントが担当します。回診は診療上での指導が中心となり、総論的な内容は少ないです。レジデント全体での勉強会を勤務時間内に行うことは通常困難です。更に必要に迫られた予習・復習、疑問解決の為の文献検索で夜遅くまで病院に残ります。これらの違いはレジデントの臨床能力の違いとして反映されます。米国では、講義や座学の時間が多いので、教科書的な知識（幅広い鑑別診断、病態生理など）が豊富で、レジデントが後輩にレクチャーをするなど教育者としての能力も高いです。日本では、現場の経験に基づいた学習が多く、実践的な知識・技術に秀でており、文献検索による問題解決や自己学習の能力が高いです。しばしば日本の医学教育では「無駄に思える雑用でも何らかの勉強になる」という態度が賞賛されます。しかし、米国では医師以外にも出来る仕事は他の専門職に任せ、その代わりに医学の専門家を育成するための効率的な教育に時間が割かれる為、教育システムとしては米国の方が洗練されていると言えます。

しかし、非効率でも責任感を持って自主的に行う学習は、効率的で受動的な学習に勝る可能性があると思います。そして臨床医に必要な能力は所属する社会によって異なるため「日米のどちらのレジデントが優秀か」という単純な議論は出来ないと言えます。こうした教育制度の違いから、米国臨床留学で新たに学ぶことは多く、それは翻って日本の教育制度を学び直すことにも繋がると思います。しかし、米国の教育は基本的には米国で活躍するための研修であり、日本での“飛び級”的な活躍を約束するものではありません。臨床留学は素晴らしい可能性を与えてくれると思いますが、それ自体はゴールではなく、可能性に溢れた自由な環境で何を為すかが重要だと思います。“どこに何年行ったか”ではなく、“何を学んできて、何を還元出来るか”、と常に考えて進んで行くことが必要だと思います。

今回の研修では、単純な楽しみよりも今後の試練となっていくであろう困難を多く経験しましたが、それこそが最も貴重な経験であったと思います。そして、それを乗り越えた先にはきっと眩しい程の喜びが待っていると信じて、これからも前進して行きたいと思っています。



フィラデルフィア小児病院（CHOP）

野口医学研究所の浅野嘉久（創立者・名誉理事）が主宰した

トーマスジェファソン大学

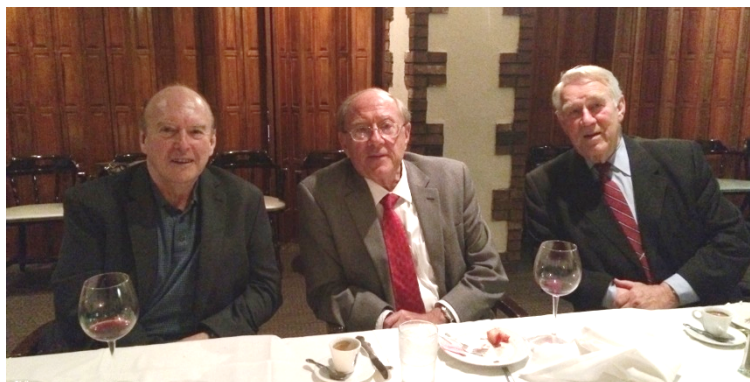
James B. Erdmann, Ph.D

退官記念晩餐会



Dr. Erdmannはトーマスジェファソン大学の6部門のうち、医学部以外の全てを取り纏めるJefferson College of Health ProfessionsのDean（Super Dean）を永年の間務め、2009年7月に引退されました。その後2012年1月に、日本からの臨床研修生の受け入れ窓口としてJapan Centerが設立すると同時に、同センターの責任者となり、約2年半に亘り臨床教育の場を提供し医学交流促進の為に尽力してられました。野口医学研究所とトーマスジェファソン大学との関係に於いて、Dr. Erdmannは非常に重要な存在です。

今年7月にDr. Erdmannが退官されることとなった為、2014年6月5日、フィラデルフィア市のイタリアンレストランにて、Dr. Erdmannの退官を記念した晩餐会を実施しました。晩餐会にはトーマスジェファソン大学のVIPの方々も出席し、落ち着いた空間で皆が和やかに食事と会話を楽しみました。

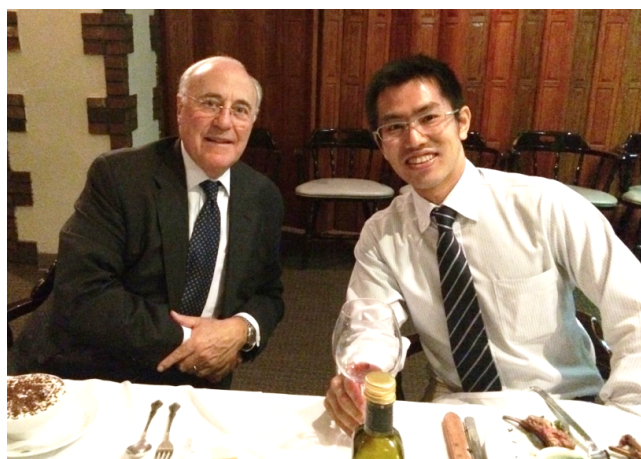


左から
J. Michael Kenney, MBA (General Manager & Secretary of NMRI)
Joseph S. Gonnella, MD (Dean Emeritus of Jefferson Medical College)
James B. Erdmann, Ph.D



左から
Takami Sato, MD, Ph.D (Professor of Thomas Jefferson University)
Mr. Takashi Sawada (Board of Trustee, Vice Chairman of NMRI)
Yoshihisa Asano, Ph.D, DPH (Founder & Chairman Emeritus of NMRI)

ちょうどフィラデルフィア小児病院（CHOP：Children's Hospital Of Philadelphia）で研修中であった高橋卓人先生も晩餐会に参加しました。通常お会いすることのできないVIPの先生方と交流を持つことができ、高橋先生も非常に興奮し、喜んでいました。



左から
Michael J. Vergare, MD (Senior Vice President for Academic Affairs of Thomas Jefferson University)
Takuto Takahashi, MD (Tokyo Metropolitan Children's Medical Center)

【高橋卓人先生より】

Thank you very much for the great dinner last night.
I was being overwhelmed surrounded by many great doctors, yet still enjoyed talking with them. I really appreciate that, and am honored to attend it as an extern.

野口医学研究所が支援する 就学助成金制度

野口医学研究所では、将来への期待と多くの方々に手を差し伸べたいという願いから、様々な形で助成を行っています。

1. 研究を助成するもの

例) 東京大学

外国人客員教員の招聘やニュースレターの発行を含めた教育研究の為のあらゆる活動に充当されている奨学金です。

2. 就学を助成するもの

例) 女子栄養大学

経済的理由により卒業に支障がある学生を対象とした給付型の奨学金です。国家試験を控える学生のアルバイト時間を軽減し、少しでも勉強に集中できる環境を整えてあげたいという思いで支援しています。

3. 留学並びに就学を助成するもの

例) 日本歯科大学

一部は歯科留学支援を目的として、一部は経済的理由により卒業に支障がある学生への支援を目的として支給されている奨学金です。

これまでに頂いた感謝状の一部



女子栄養大学にて行われた奨学金授与式の様子

2014年2月1日(土)、女子栄養大学・駒込キャンパスに於いて、奨学金授与式が行われました。授与式には、授与者に選ばれた9名の内8名の学生が出席し、浅野嘉久(米国財団法人野口医学研究所創立者・名誉理事、一般社団法人野口医学研究所社員総代)より一人一人に給付決定通知が手渡されました。



賛助会員のご紹介

「財団野口」は、国際医学交流の推進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。活動に当たっては外部の方々のご支援・ご協力が必要であり、その一つの方法として、“賛助会員制度”を設けています。『Noguchi Times Vol.3』では株式会社ゴールデンタイム様をご紹介します。

株式会社ゴールデンタイム様のご紹介

万国共通、永遠の美と健康は尽きないものです。これらのコンセプトを徹底追及し、独自の商材を提供する小売り専門の通販会社です。商品は、基本的に当社独自情報により製品化されるもので他店には絶対ありません。医薬品ではなく、民間伝承から数千年にわたり安全性が確認されている商材からできる、コスメ、サプリメント等です。この“安全素材でありながら効果を発揮する商品作り”が難問であり、醍醐味なのです。海外の未開発な地には、まだまだすばらしい効果を生む素材が多く潜んでいると思われます。大自然の歴史から生まれるもののです。この素材との出会いが運命となり多数のユーザーに支持されるのです。

株式会社ゴールデンタイム
代表取締役社長 坪井 洋成

野口記念インターナショナル 画像診断クリニックのご案内

佐藤俊彦先生（米国財団法人野口医学研究所 理事、放射線専門医）が院長を務めるクリニックです。

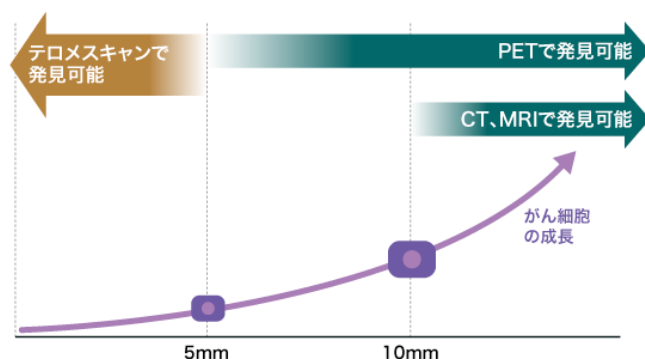
【所在地】

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-22-13
虎ノ門秋山ビル2階

テロメスキャン®

癌の超早期発見を目的とする検査として、がん診断用ウイルス製剤の「テロメスキャン®」があります。他の検査では発見することが困難な5ミリ以下の癌がある場合でも、実は血液中にはすでに癌細胞が浮遊しています。この浮遊している癌細胞に注目して開発されたのがテロメスキャン®です。

採取した血液に独自の技術を用いて癌細胞だけを蛍光発色させる処理を行い、その中に癌細胞が存在するか否かを調べます。



癌は今や2人に1人の時代。
あなたやそのご家族もいずれ同じ運命を辿ることになる
かもしれません。

是非一度検査することをお勧めします。



NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 3

発行日 2014年7月29日
発行人 安東 恭助
発行所 米国財団法人野口医学研究所
編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
電話 03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所 参与会
